

学会・研修会印象記

NPO 法人全国在宅リハビリ テーションを考える会 法人設立記念大会

2010年7月10日(土)・11日(日)

東京国際フォーラム・東京衛生学園専門学校

大浦由紀

(NPO 法人全国在宅リハビリテーションを考える会理事, 作業療法士)

川本愛一郎

(有限会社リハシップあい, 作業療法士, 言語聴覚士)

全国在宅リハビリテーションを考える会は、全国の在宅リハに関わる事業者および専門職に対し、科学的かつ適正な医療・介護・福祉の普及・啓発・支援に関する事業を行い、国民が安心して暮らせる地域づくりに寄与することを目的として設立されたNPO 法人である。2006年(平成18年)より、年3~4回定例会議を開催し、情報共有、学習会、効果判定のバッテリーの検討、実際の評価データの収集を行ってきた。参加企業50 法人となり、このたび正式なNPO 法人格取得を記念して、記念大会を開催した。7名で構成する理事の中で、私は唯一のOTとして理事を務めている。

本大会の開催には、1年以上前から計画・準備を進めてきた。定例会議を重ねるごとに少しずつ会員を増やしてはきたものの、1カ月前時点では、目標動員数200名は遥か遠い数であった。3協会のHPや広報誌への掲載、学会・研修会でのチラシ配布等の広報に協力をいただいたおかげで、当日は目標を超え、会場にあふれんばかりの参加者を集めることができた。1日目の記念講演とシンポジウムもさることながら、2日目の「起業塾」も予想を上回る多数の参加者が集まり、理事である起業セラピストたちの細やかで熱い起業講座では、参加者より「とても有意義だった」との感想を多数いただいた。セラピストにとって起業は一つの選択肢になりつつあることを実感した。今後さらに、社会貢献のために地域でセラピストが担うべき大きな役割を肅々と果たしていきたいと士気が高まった2日間であった。(大浦)

*

今回、7月10日・11日の日程で東京にて開催された、



1日目のシンポジウム風景

NPO 法人全国在宅リハビリテーションを考える会法人設立記念大会に参加した。同会は、理事長に(株)誠和医科学代表取締役の塩中雅博氏(PT)が就任されており、理事の方々もPT・OTで起業の先頭を走っておられる方ばかりの、熱い志のプロ集団である。

1日目の記念大会は、理事長挨拶の後、澤村誠志氏(兵庫県立総合リハビリテーションセンター)が「地域リハビリテーションの国際的現状—我国におけるPT・OT・STのチャレンジ」と題して記念講演をされた。続いて松井一人氏(同会副理事長、(有)ほっとリハビリステムズ代表取締役, PT)を座長として、「我が国における地域リハビリテーションの将来展望—PT・OT・ST 起業者に求められる責任」と題したシンポジウムが開かれた。シンポジストは、澤村氏、松田晋哉氏(産業医科大学)、川越雅弘氏(国立社会保障・人口問題研究所)、塩中氏であった。

2日目は「起業塾」として、経営者向けや、これから起業を目指す人向け等、対象ごとに分かれた講義やワークショップが行われた。私は、第1セッションでは塩中氏の、第2セッションでは小山樹氏(同会理事、(株)ジェネラス代表取締役, PT)の講義に参加し、「起業」についての経験にもとづいた実践的なレクチャーを受けた。

2日間の研修を通じての感想は、経済という言葉の成り立ちである「経済済民=国を治め民を救済すること」を今こそ実践すべき時と強く思ったことである。また、社会保障の充実がわが国の経済の救世主となることを実感できた。

今回の研修会の意義は、われわれPT・OT・STにとって「医療の専門職」から「経済に寄与する専門職」へのパラダイムシフトへの予兆(きざし)にあるのではないかということである。最後に、最近知った二宮尊徳の「道徳なき経済は罪悪である。経済なき道徳は寝言である」という言葉を紹介し、研修会参加のまとめとしたい。(川本)